

ペルー 生食用ブドウの困難なシーズンを終了 日本は新市場

[The Grape Reporter 2024年4月3日](#)

ペルーは、産地全体で異常気象に見舞われた2023-24年度の生食用ブドウのシーズンを終わりつつある。ペルー生食用ブドウ生産出荷業者協会(Provid)のアレハンドロ・カブレラ事務局長は、FreshFruitPortal.com(本サイトの親サイト)に対し、荒天は1年前に始まったと語った。(以下「」は同氏の発言)

2023年3月上旬に発生したサイクロン『ヤク』は、ペルー北部に推定6億3千万ドルの被害をもたらした。この災害では、何週間にもわたって強風と雨が続き、生食用ブドウの出荷量は30%減少した。「エルニーニョ現象も発生し、気温が上昇した。そのため、非常に暖かい冬、と言うよりも、昨年ペルーには冬がなかった。」これは、1エーカー当たりの作物の収量に直接影響し、ブドウの収穫量が少なくなった。「第12週(3月22日)までの輸出量は前年比で12%減少した。昨シーズンは第12週までに7,110万箱(8.2kg/箱)を出荷していたが、今シーズンは同じ週までに6,240万箱となっている。これは、我々が昨年11月に数量の減少を予測したときに指摘したことを裏付けている。」

課題 商業的な観点から見ると、カブレラ氏の主な関心事は輸送量が減少しているパナマ運河の干ばつに關係している。「それは、船が自由に航行できなくなり、我々の主な輸出先である米国東海岸にたどり着くことができないことを意味する。そのため、明らかに懸念があった。しかし、幸いなことに、ペルーの出荷業者が利用する船会社は緊急時対応計画を持っている。運河を通過する特定の便があったので、貨物を前進させることができた。」アジア向けの出荷の大幅な遅延は、シーズン中に別の課題をもたらした。同氏は、輸送日数が通常より最大2週間長くなったという話を出荷業者から聞いたと言う。

価格 今シーズンは、例年に比べて輸出業者にとって価格が上昇している、とカブレラ氏は述べた。「我々の主な輸出先である米国では、ペルーだけでなく、カリフォルニア州でも2023年8月に襲ったハリケーンヒラリーの影響で供給量が3千万箱(8.2kg/箱)減少した。我々はこのことについて非常に率直で正直でなければならない。価格が上がったのは、何か違うことをしたからではない。これが需要と供給であり、我々は自由な市場によって支配されているため、価格が上昇した。供給が減り、需要が維持されると、品不足によって価格が上昇する。」ペルーで生食用ブドウの出荷量が最も多い地域はイカ県で総供給量の56%を占め、次いでピウラ県が出荷量の32%を占めている。そのほか、ラリベルタ県が4%、アレキパ県が3%となっている。

品種 ペルー産の生食用ブドウ品種についてカブレラ氏は、第12週現在、スイートグローブが最も多い品種となっており、同国の供給量の23%を占めていると述べた。2位はレッドグローブで17%、オータムクリスは15%である。4位はアリソンで出荷量の8%、5位はティンプソンで出荷量の5%を占めている。「これら5つの品種で全輸出量のほぼ70%を占めている。今シーズンは、昨シーズンに比べて33%増加したオータムクリスの増加が際立っている。680万箱から900万箱へと、これほど大きく増えた品種はこれだけである。」

市場 カブレラ氏によると、ペルー産ブドウの主な輸出先市場は依然として米国で、出荷量の46%を占め、オランダが12%で続いている。「メキシコは今シーズン8.5%のシェアで3位となり、7.7%にとどまった中国を上回った。5位は英国で出荷量の3.8%を占めた。」

米国農務省のデータによると、ペルーは米国向けブドウの2番目に大きな供給国であり、全体の32%を占めている。カブレラ氏は、供給量の減少により、すべての輸出先でペルーからの生食用ブドウの輸入が減少したと述べた。米国では12%減、オランダでは19%減、中国では18%減となった。メキシコは例外で、昨シーズンとほぼ同じ出荷量を維持している。

最新の市場: 日本 日本の市場開放について、カブレラ氏は、このニュースはペルーにとって重要なことだと述べた。「ブドウを送る機会を得た最初の1年間で、我々は30万箱を出荷し、日本はペルーからの輸出先として20位にランクインした。日本での2シーズン目には、市場が確立されると思う。」

物流 今年、ペルー南部にパラカス港が開港し、同国の物流にとって大きな成果となった。カブレラ氏によると、港は多くの出荷業者の作業場や梱包施設の近くに位置しており、ペルーの南部地域全体からの果実の輸出を支えている。「これは、将来に向けて非常に心強いニュースである。」